

#### IV 暮らしの将来的な持続可能性の見通しと満足度の関係性(将来不安の視点から)

2020 年2月に実施した調査では、将来にわたる暮らしの持続可能性の見通しと満足度との関係性について把握するための質問を加えた。具体的には、将来の暮らしへの不安が現在の満足度に影響を及ぼしているのではないかと、との想定にたち、現在の分野別満足度に対応させて、将来の見通し(不安の度合い)について、分野ごとに質問した<sup>25</sup>。

##### 1. 実施概要

将来の見通しと現在の満足度との相関関係を分析した。その際には、分野横断的に相関を把握した。それは、例えば、将来の「住宅」の見通しの評価が、現在の「住宅」の満足度だけではなく、現在の「家計と資産」の満足度とも相関のある可能性が見込まれるからである。また、将来の見通しの評価は、年齢と大きな関係があると見込まれるため、年齢別に、満足度と将来見通しの点数の差の大きさを分析した。

##### 2. 結果

現在の「家計と資産」の満足度は、将来の「家計と資産」の満足度と強い相関があった。その他の分野においても現在の満足度とその分野の将来見通しとの間に強い相関が確認された。これは図表3-4-1の対角線上で示されるところである。また、現在の「家計と資産」の満足度は、「雇用環境と賃金」「住宅」等全分野の将来見通しと中程度以上の相関がみられた。他の分野の満足度も同様に、多くの分野の将来見通しと概ね中程度以上の相関が確認された。現在の満足度と将来の見通しには分野横断的な関係が確認できた。

相関係数と合わせて、満足度と将来見通しとの差(満足度の点数から将来見通しの点数を引いた差<sup>26</sup>)を分野別に確認すると、「健康状態」「自然環境」「身の回りの安全」で他の分野よりも大きな差が見られた。なお、これらの分野だけではなく、全分野で統計的に有意な差(1%水準)があることが確認された。

年齢別にみると、60-89 歳では、大半の分野で、現在の満足度と将来見通しとの差が、回答者全体の水準を下回っており、現在の満足度と将来見通しが近い水準にある。他方、25-34 歳、35-44 歳では大半の分野で、回答者全体の水準を上回っており、現在の満足度と将来見通しが他の年齢層に比べてやや乖離している傾向がみられる。

<sup>25</sup> 本調査は2019年1月～2月(約10000人)、2020年2月(約5000人)の2回にわたって実施した調査であり、2020年2月の調査では一部の質問の組み換えを行っている。

<sup>26</sup> 満足度が同じ点数の場合、将来見通し(将来不安の小ささ)が低い(=将来不安が大きいと、満足度と将来見通しの差は大きくなる。また、将来見通し(将来不安の小ささ)の点数に対して満足度の点数が低いとマイナスになる。

これらの年齢層では、他の年齢層に比べて将来的な見通しに不安を抱える傾向が強いと見込まれる。なお、25-34 歳では「子育て」、35-44 歳では「健康状態」でこの傾向が顕著である。

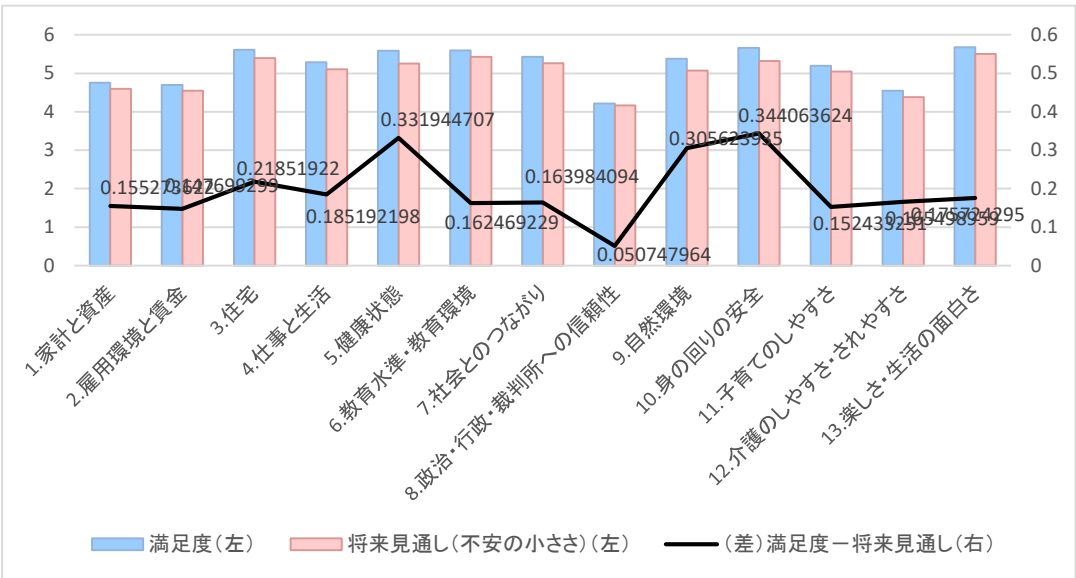
また、現在の満足度と将来見通しの差の標準偏差をみると、若い層ほど標準偏差が大きくなっており、ばらつきのある傾向がみられる。若い層ほど、個人差が大きいと見込まれる。

図表 3-4-1 分野別の満足度と将来見通しとの相関

| 1. 相関分析(相関係数) |                  | 将来見通し(将来不安の小ささ) |           |      |         |        |             |            |                  |        |            |             |            |               |
|---------------|------------------|-----------------|-----------|------|---------|--------|-------------|------------|------------------|--------|------------|-------------|------------|---------------|
| 満足度           |                  | 1.家計と資産         | 2.雇用環境と賃金 | 3.住宅 | 4.仕事と生活 | 5.健康状態 | 6.教育水準・教育環境 | 7.社会とのつながり | 8.政治・行政・裁判所への信頼性 | 9.自然環境 | 10.身の回りの安全 | 11.子育てのしやすさ | 12.介護のしやすさ | 13.生活の楽しさ・面白さ |
|               | 1.家計と資産          | 0.83            | 0.68      | 0.60 | 0.62    | 0.53   | 0.57        | 0.53       | 0.47             | 0.48   | 0.51       | 0.48        | 0.54       | 0.61          |
|               | 2.雇用環境と賃金        | 0.67            | 0.80      | 0.53 | 0.67    | 0.51   | 0.54        | 0.51       | 0.48             | 0.47   | 0.49       | 0.50        | 0.52       | 0.59          |
|               | 3.住宅             | 0.56            | 0.51      | 0.81 | 0.57    | 0.48   | 0.54        | 0.52       | 0.36             | 0.47   | 0.50       | 0.46        | 0.45       | 0.60          |
|               | 4.仕事と生活          | 0.60            | 0.64      | 0.58 | 0.78    | 0.55   | 0.57        | 0.57       | 0.41             | 0.48   | 0.51       | 0.48        | 0.49       | 0.67          |
|               | 5.健康状態           | 0.51            | 0.49      | 0.50 | 0.58    | 0.81   | 0.55        | 0.54       | 0.37             | 0.46   | 0.51       | 0.42        | 0.44       | 0.61          |
|               | 6.教育水準・教育環境      | 0.56            | 0.55      | 0.55 | 0.59    | 0.54   | 0.80        | 0.60       | 0.41             | 0.48   | 0.52       | 0.48        | 0.47       | 0.60          |
|               | 7.社会とのつながり       | 0.51            | 0.50      | 0.54 | 0.58    | 0.53   | 0.59        | 0.81       | 0.40             | 0.47   | 0.49       | 0.45        | 0.47       | 0.66          |
|               | 8.政治・行政・裁判所への信頼性 | 0.48            | 0.49      | 0.40 | 0.45    | 0.41   | 0.43        | 0.45       | 0.81             | 0.51   | 0.48       | 0.46        | 0.54       | 0.42          |
|               | 9.自然環境           | 0.46            | 0.45      | 0.50 | 0.50    | 0.46   | 0.49        | 0.49       | 0.48             | 0.74   | 0.63       | 0.48        | 0.48       | 0.53          |
|               | 10.身の回りの安全       | 0.48            | 0.47      | 0.52 | 0.52    | 0.52   | 0.52        | 0.51       | 0.45             | 0.63   | 0.76       | 0.51        | 0.48       | 0.56          |
|               | 11.子育てのしやすさ      | 0.46            | 0.48      | 0.46 | 0.50    | 0.41   | 0.48        | 0.48       | 0.46             | 0.50   | 0.53       | 0.75        | 0.57       | 0.50          |
|               | 12.介護のしやすさ       | 0.53            | 0.52      | 0.46 | 0.52    | 0.46   | 0.47        | 0.50       | 0.54             | 0.51   | 0.52       | 0.58        | 0.75       | 0.50          |
|               | 13.生活の楽しさ・面白さ    | 0.59            | 0.56      | 0.56 | 0.64    | 0.58   | 0.58        | 0.64       | 0.39             | 0.48   | 0.53       | 0.48        | 0.48       | 0.82          |

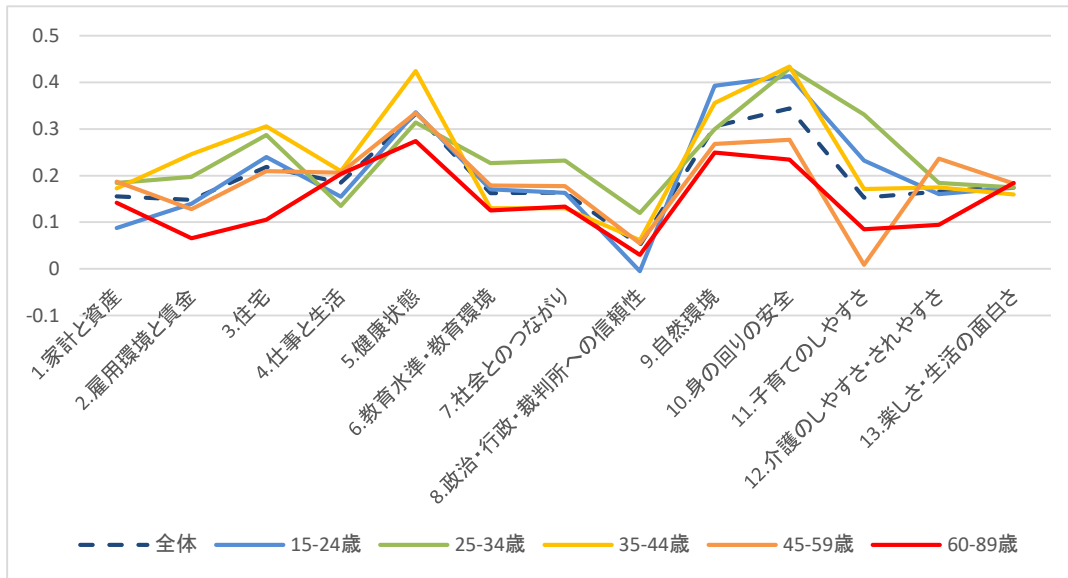
※すべて1%水準で有意。

図表 3-4-2 分野別の満足度と将来の見通し

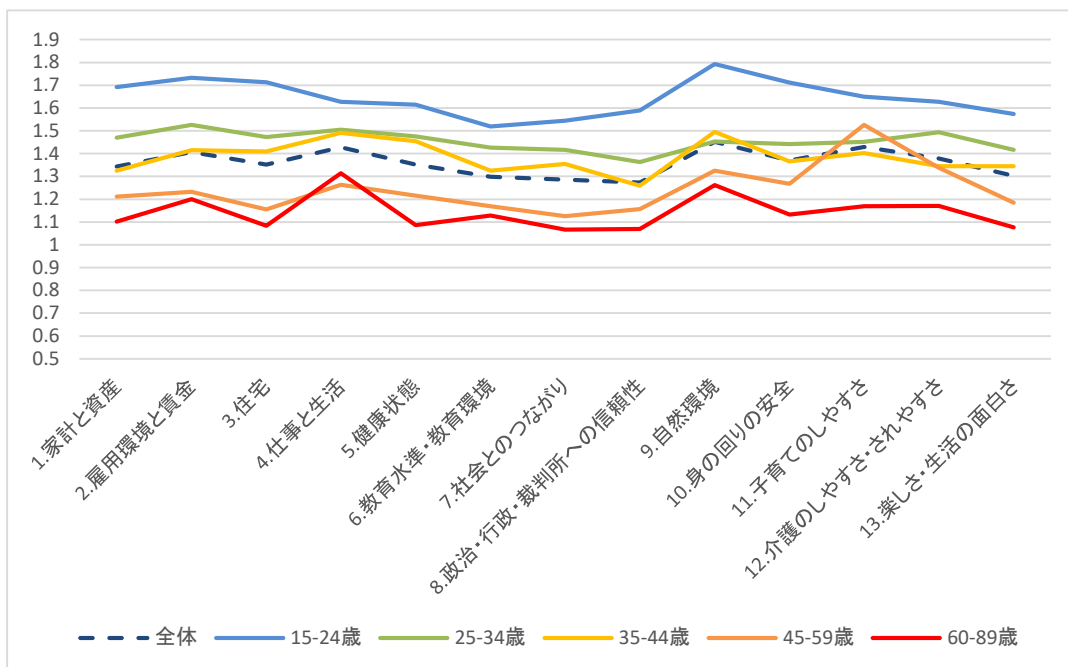


※各分野の満足度と将来不安の差は、すべて1%水準で有意。

図表 3-4-3 年齢別の分野別満足度と将来見通しの差



図表 3-4-4 年齢別の分野別満足度と将来見通しの差の標準偏差



## V 生活課題・欲求に対処するための資源からみたクラスター

生活上の課題や欲求に対処できれば満足度が高く、対処できない場合は欲求不満となり、その分だけ満足度が低下するのではないか。そして満足度が低い層は、生活課題・欲求に対処するための資源が乏しいのではないか。ここでは、これを仮説として分析を進めることとした。

生活課題・欲求への対処のためには、自分で行動するか、他の人の協力や支援を得るか、あるいは、市場の商品・サービスを利用することが必要となる。これらに対応する資源としては、自分自身(自己資源)、他の人との関係(社会関係的資源)、資金(経済的資源)等が想定される。本調査でこれに対応する資源を抽出すると、自己資源として、健康状態、学歴等、社会関係的資源として家族、友人関係等、経済的資源としては世帯収入、金融資産等が得られた。そこで、これらの各資源の保有状況を生活全般の満足度と対応させてみることで、満足度の低い層の特性を把握することとした。

| 生活課題・欲求対処のための資源 | 資源に相当する変数    | 分析用変数の作成                                                                                                                                                                              |
|-----------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自己資源            | 健康状態         | 「健康状態」は、「よい」から「よくない」まで降順の5段階の категория でできている順序尺度の変数である。そこで、「よい」を5点とし、等間隔で各カテゴリー配点し、「よくない」を1点とした。他の変数についても同様に、資源が少ないカテゴリーから資源が豊富なカテゴリーに向かって昇順に等間隔で配点を行った。この配点を分析に使用した。 <sup>27</sup> |
|                 | 学歴           |                                                                                                                                                                                       |
| 社会関係的資源         | 家族人数         |                                                                                                                                                                                       |
|                 | 困った時に頼りになる人数 |                                                                                                                                                                                       |
| 経済的資源           | 世帯年収         |                                                                                                                                                                                       |
|                 | 金融資産残高       |                                                                                                                                                                                       |

クラスター分析<sup>28</sup>により、これらの6つの属性により機械的にグルーピング(クラスター化)を行った。その上で、この分析によって得られたクラスターと満足度との関係を整理した。

クラスター分析では6クラスター(C1～C6)にグルーピングした。各クラスターの特徴は以下のとおりである。

<sup>27</sup> 階級平均値を用いた変数の作成も行ったが、クラスター化の際に階級平均値の大きなカテゴリーの影響が大きく現れ、必ずしも各クラスターの特性が見えやすくなかったため、本分析では順序で配点したデータを使用した。

<sup>28</sup> クラスター分析: クラスターとは「グループ」「層」等を意味する。クラスター分析は類似したサンプルを機械的に結合してグルーピング(層化)する方法である。またクラスター分析は、探索型の分析であり、特徴的なグループ(層)を作成するための多様な結合方法がある。本分析では結合方法としてWARD法を用いた。WARD法は、各グループ内の各サンプルからそのグループの重心までの距離の平方和(群内平方和)の増分が最小になるようにグループ(またはサンプル)を併合していく方法であり、最も一般的に用いられている方法の一つである。

| クラスター | 特徴                                              | n    |
|-------|-------------------------------------------------|------|
| C1    | 全般的に資源に乏しい層                                     | 2607 |
| C2    | 全般的に資源が豊富な層                                     | 3685 |
| C3    | 自己資源（特に学歴）のみ豊富な層                                | 2087 |
| C4    | 欠落した資源はなく、バランスよく資源がそろいが、経済的資源（特に金融資産）はあまり豊富でない層 | 3144 |
| C5    | 経済的資源（特に金融資産）は豊富だが、他の資源は乏しい層                    | 1551 |
| C6    | 社会関係的資源（家族、頼りになる人数）及び健康度が高い一方、学歴度が低い層           | 2500 |

各クラスターの満足度をみると、以下の傾向がみられた。

- ① 資源が全般的に豊富な層（C2）の満足度は全般的に高い。
- ② 金融資産が多くなく、かつ学歴が低くても、社会関係的資源が豊富で、健康度が高い層（C6）は満足度が全般的に高めであり、家計と資産の満足度も高めである。
- ③ 豊富にそろそろ何らかの資源が1つでもある層（C1以外）は、分野別満足度で満足度が低い分野があっても、生活全般の満足度は 5.5 以上となっている。
- ④ すべての資源に乏しい層（C1）は分野別満足度が全般的に低く、生活全般の満足度も5を切っている。

属性別にみると以下の傾向がみられた。

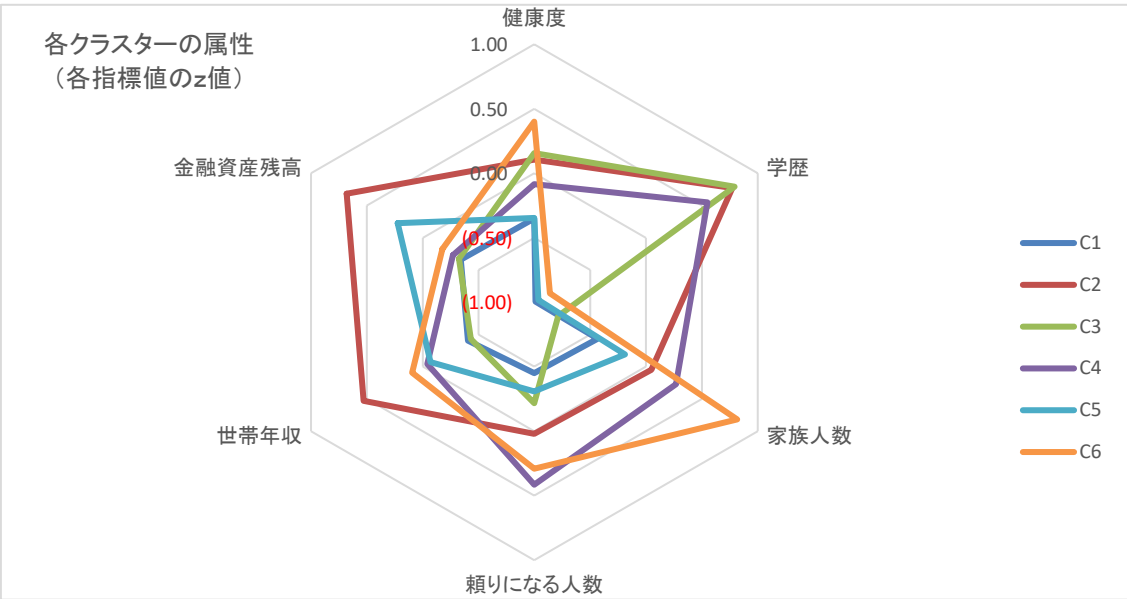
- ⑤ C2、C4、C6は性別、年齢を問わず、生活全般の満足度が高い。C4は金融資産が豊富ではなく、年収も平均的であり、C6は学歴が低いが総合主観満足度は概ね 5.8 以上となっている。
- ⑥ 学歴のみが突出して高い C3が、現役世代では年齢が高くなるほど生活全般の満足度が低くなり、60 歳以上で回復している。
- ⑦ 金融資産が豊富な C2は、中高年以降から特に高くなっている。
- ⑧ すべての資源に乏しい C1は現役世代全般で生活全般の満足度が5を下回っている。

生活課題・欲求への対処の資源が全般的に乏しい層は、満足度が低くなっていた。裏返せば、満足度が低い層は、資源が全般的に乏しい層と対応しており、仮説に沿う結果が得られている。

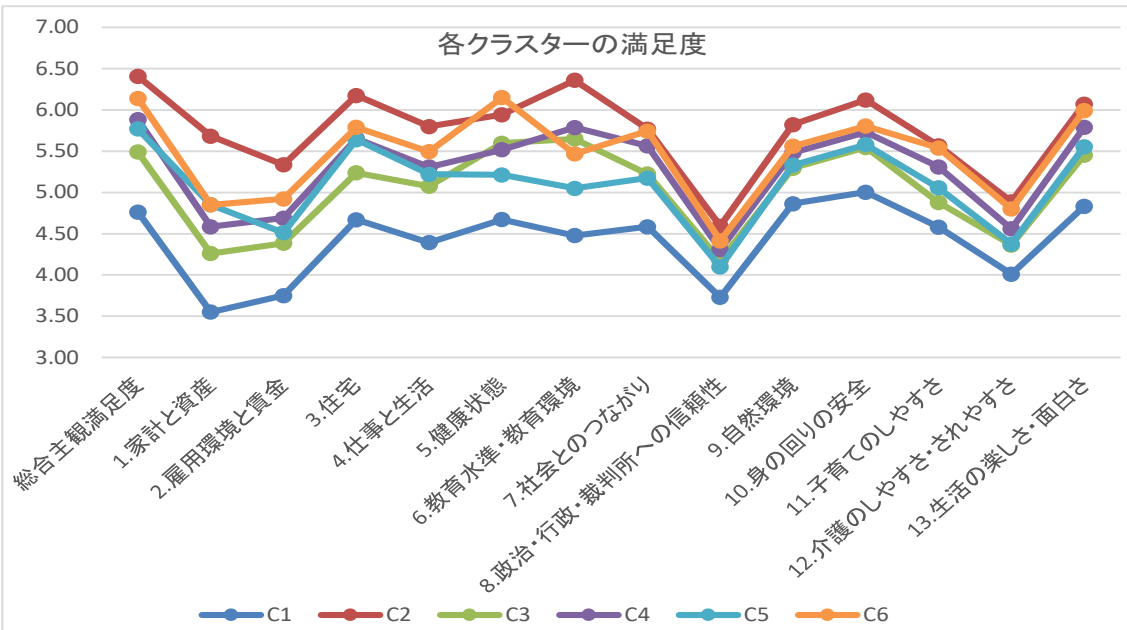
各クラスターの満足度の傾向から、豊富にそろそろ何らかの資源が1つでもある場合、分野別満足度で満足度が低い分野があっても、生活全般の満足度は低くはないことが分かった。このことから、生活課題・欲求への対処の資源が全くない状況を生じさせない、解消させることの重要性がうかがえる。

各クラスターにおける属性別の満足度の傾向から、属性によって満足度に重要な資源は異なる様子がうかがえる。資源が全くないという状況を生じさせない、あるいは解消する際には、各属性で、満足度に対して重要となる資源に着目することの重要性がうかがえる。

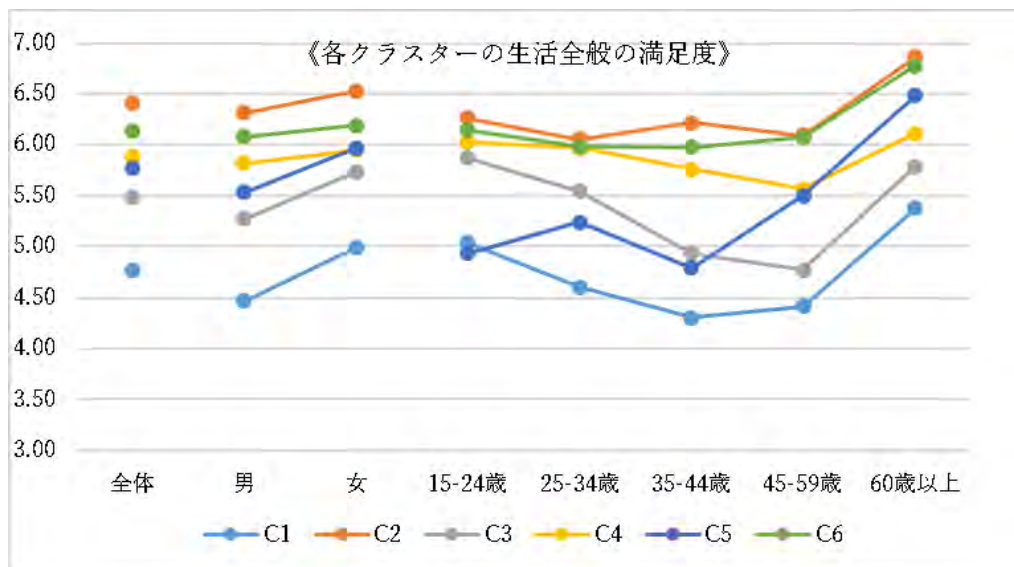
図表 3-5-1 各クラスターの資源保有状況



図表 3-5-2 各クラスターの満足度



図表 3-5-3 各クラスターの基本属性別満足度



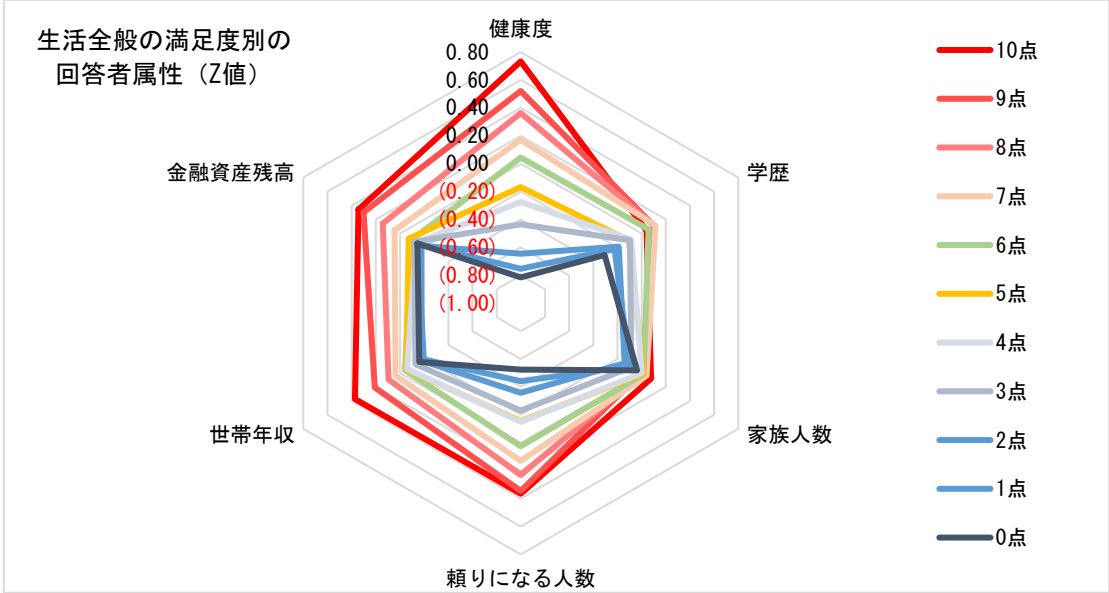
## 2. 生活全般の満足度と資源保有状況の関係

次に、生活全般の満足度別(0点から10点)に生活課題・欲求対処のための資源の状況を確認したところ、0点の人と10点の人の差は、6つの資源のうち「健康度」で特に大きく現れていた。また、「頼りになる人数」でも大きな開きがあった。これらの差は、「世帯年収」や「金融資産残高」における差よりも大きく現れていた。このことから、健康や社会関係等の資源の重要性が生活全体の満足度であることが浮かび上がった。

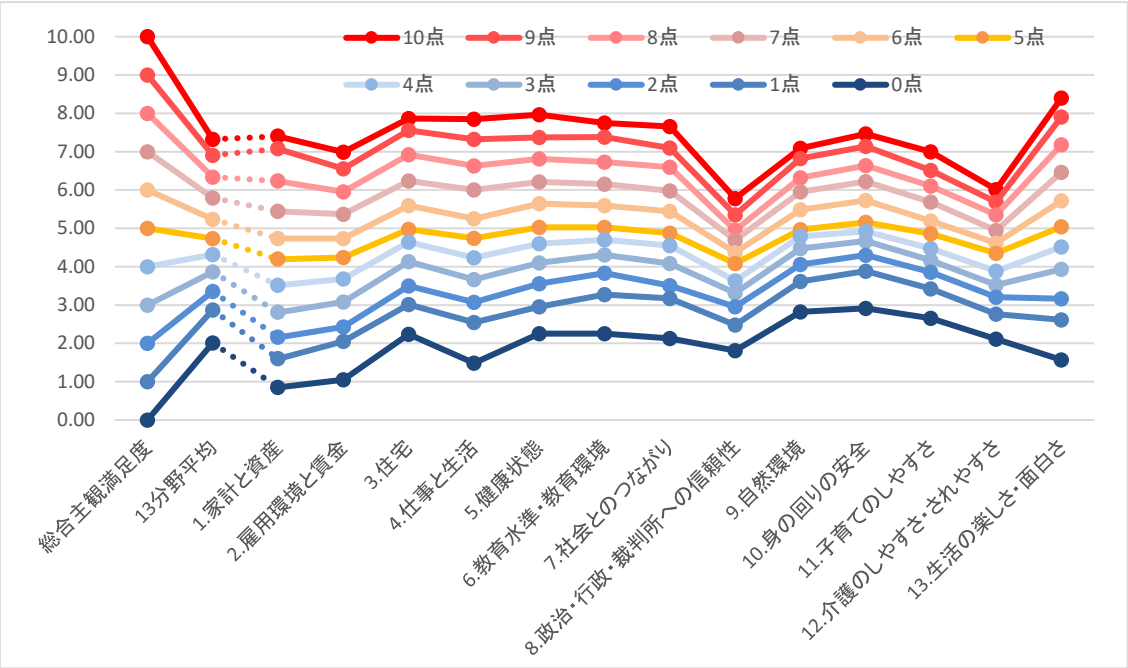
また、0点の人と5点の人とを比べると、「世帯年収」や「金融資産」では資源の豊富さに大きな差はない一方、「健康度」や「頼りになる人数」では大きな差が生じており、満足度が低い方では、「健康度」「頼りになる人数」と生活全般の満足度との関係性が、他の資源と満足度との関係性よりも強い様子がうかがえる。満足度の低い層の満足度の向上に向けては、これらの資源の増進を図る政策の重要性が特に高いことがうかがえる。

なお、上記に関連して、生活全般の満足度と分野別の満足度の状況をみると、生活全般の満足度が5点以上の層では、生活全体の満足度が13分野の満足度の平均を上回っていた。このことから13分野以外の生活分野の満足度や属性要因等が、生活全体の満足度を押し上げていることがうかがわれる。また、13分野の満足度が満足傾向を増幅している可能性も指摘される。これに対して、生活全般の満足度が4点以下の層では生活全般の満足度が13分野の満足度の平均を下回っていた。13分野以外の生活分野の満足度あるいは属性要因等が生活全体の満足度を押し下げていることがうかがわれる。13分野の満足度が不満傾向を増幅している可能性も指摘される。特に生活全般の満足度が0点～2点の層では、生活全般の満足度が13分野のいずれの満足度も下回っており、13分野の直接的な押し下げ要因以外の要因も大きいものと見込まれる。

図表 3-5-4 生活全体の満足度別の資源保有状況



図表 3-5-5 生活全体の満足度別と分野別満足度





## VI SNS の利用と生活満足度

本研究は、本調査を活用して、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の利用と生活満足度との関係を、「知覚されたソーシャル・サポート(社会的支援) (perceived social support、以下 PSS)」の媒介効果に着目して試行的に分析したものである。

PSS とは、必要な時に社会的支援が得られるという可能性を認識していることを意味する。十分なレベルの社会的支援の可能性を認識している人は、必要な時に十分な支援が得られると信じており、それにより満足度が高まる。実際、PSS は、実際に社会的支援を受けた場合と比較して、より一貫して満足感とメンタルヘルスを改善できることが先行研究で示されている。ここでは、PSS について、本調査の質問のひとつ、「困った時に頼りになる人(同居している家族や親族以外)がいるか、いる場合は何人いるか」に対する回答を活用している。

まず、基本的な回帰分析の結果、若年層(15～29 歳)、中年層(30～59 歳)、高齢層(60～86 歳)のすべての年齢層において、SNS 利用が生活満足度と正の関連を持つことが確認された。しかし、SNS の友達の数が 100 人以上の場合には、この関連性は一様ではなくなる。

第二に、構造方程式モデリング分析により、全年齢層において SNS 利用と生活満足度の関連性に、PSS が介在することが明らかになった。具体的には、SNS 利用を 10 人以上の SNS 友達がいると定義した場合、若年層で 35.3%、中年層で 37.0%、老年層で 40.4%が PSS の媒介効果によるものであることが分かった。また、SNS の友達の数に関わらず、SNS 利用と生活満足度との間の正の相関には、PSS の媒介効果が一貫して寄与していた。これらの結果から、SNS 利用は PSS への正の影響を介して生活満足度を高める可能性があることが示唆されている。

